

第36回フォトニクスミーティング (The 36th Meeting on Glasses for Photonics) 開催のお知らせ

寒さもいっそう厳しさを増す季節となりました。みなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本セラミックス協会ガラス部会では、表題のフォトニクスミーティングを下記の日程にて開催する運びとなりました。第36回では、若手先進精鋭のフォトニクス材料研究者の先生方をお呼びしてお話を聞きする招待講演会といたしました。対面およびオンラインのハイブリッドでの開催としております。奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

日 時：2026年1月26日（月曜日）12:30開場

場 所：東京科学大学大岡山キャンパス南7号館

講演時間：13:10～17:00 交流会：17:10から

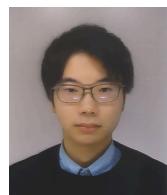
参加形態：対面およびオンライン（by Zoom）のハイブリッド

講演会参加費：一般4,000円、日本セラミックス協会/応用物理学会会員3,000円、学生1,000円

（口座振込 みずほ銀行大岡山支店（145）2252208 東京工業大学ガラス研究室）

（交流会参加費は現地にてお支払いください）

参加申込：右のQRコードからお願ひいたします。（2026/1/21まで）



光井 和輝 氏（東京科学大学 総合研究院 フロンティア材料研究所 平松研究室）

「無毒元素のみで実現する高電子伝導性酸化物ガラス」

光電融合デバイスへの応用を目指し、無毒元素のみで構成されるn型酸化物バルクガラスの創製に取り組んだ。フッ素添加 Fe_3O_4 - Bi_2O_3 - B_2O_3 系ガラスは室温導電率~ 10^{-2} S/cm、水素還元雰囲気下で作製した WO_3 - P_2O_5 系ガラスは~ 10 S/cmを示し、ともにn型伝導性を有する。



湯澤 佑介 氏（キオクシア株式会社 先端技術研究所）

「非晶質材料の変形距離指標による局所原子構造の分類 -ELNESスペクトルによるアルミナの構造特定への活用-」

新規蛍光体探索に用いられた手法をヒントに、非晶質の原子構造分類に向けた新たな構造特徴量の構築という野心的な課題に挑戦した。その結果として、ELNESスペクトルを活用した非晶質アルミナの構造特定に至った事例を紹介する。



吉本 幸平氏（株式会社ニコン 光学素材部）

「無容器 法による高機能光学ガラスの研究開発」

無容器法を活用して新規に創出した酸化物ガラスの光機能（超高屈折率、高屈折率・低分散、透過率特性、蛍光特性）、実用化に向けたサイズ拡大、さらに原子構造や電子状態の解析による物性発現機構の解明に向けた取り組みを紹介する。



北川 裕貴 氏（産業技術総合研究所 材料基盤研究部門）

「配位アニオンに着目した希土類添加蛍光体の設計とその光物性」

蛍光体の発光中心はカチオンであることが多く、配位環境におけるアニオン種は光物性に大きな影響を及ぼす。本発表では化合物内の異種アニオン配位に着目することで発現する、複合アニオン蛍光体の特異な光物性について紹介する。



岡 亮平 氏（名古屋工業大学 生命・応用化学類 環境セラミックス分野）

「環境に優しい着色無機顔料」

これまでに工業的に使用してきた無機顔料の多くは人体や環境に有害な元素を含むため、環境調和型顔料の開発が求められている。講演者らは発色イオンの配位環境等を制御することにより新規顔料を開発してきた。本講演では、その研究成果について紹介する。

主 催：公益社団法人 日本セラミックス協会 ガラス部会 フォトニクス分科会

問合先：東京科学大学 物質理工学院 材料系 矢野 哲司

電話 03-5734-2522または-2523, e-mail tetsuji@ceram.titech.ac.jp